

科目名	20世紀の音楽			科目コード	0224
開講学科	共通専門科目	単位数	4	形態	講義
教員名	徳備康純・大政直人				
授業の目的及びテーマ					
20世紀はまさに壮大な音楽の実験の世紀といってよい。その始まりをどこにおくのか。「20世紀の音楽」では、ドビュッシーを20世紀の扉を開いた作曲家と位置づけ、20世紀の音楽を作曲学的立場から技法的な側面を中心に考察し、現代音楽への理解を深める					
授業概要					
ポール・グリフィス著「現代音楽小史」をテキストとして、これを熟読し、20世紀のおおまかな作曲技法と様式の変遷を知識としてとらえ、そこに出てくる作曲家と作品のCDなどを出来るだけ多く聞き、そこから広がった知識を更に深く考察し、レポートを制作し、提出する。					
授業計画					
第1回：ワーグナーのトリスタンとイゾルデの和声の試み 第2回：19世紀音楽におけるリスト、ブルックナーなどへのトリスタンの影響 第3回：ドビュッシーの「牧神の午後への前奏曲」のもたらしたもの 第4回：後期ロマン派の背景について(1) R.シュトラウスなど 第5回：後期ロマン派の背景について(2) マーラーなど 第6回：後期ロマン派の背景について(3) シベリウスの沈黙とバーバーやウォルトンなど 第7回：モード技法(1 教会旋法の応用) 第8回：モード技法(2 人工的音階による新しいモード技法) 第9回：新たな和声 シェーンベルクについて 四度和声、二度和声などの発見 第10回：新たなリズム ストラヴィンスキー、ポリリズムなど 第11回：新たな形式 ドビュッシーの遊戯から古典への回帰 第12回：新ウィーン楽派のドデカフォニーについて(1) 第13回：新ウィーン楽派のドデカフォニーについて(2) 第14回：ドビュッシーの歌劇「ペレアスとメリザンド」の研究 第15回：シェーンベルクの交響詩「ペレアスとメリザンド」の研究 ① 第14回と第15回の内容を中心にレポートを制作し、提出する。 ② またそれ以降の作曲家とその作品について、テキスト「現代音楽小史」第四章「新しい和声、新しい形式」以後で取り上げた作曲家と作品についてレポートする。 この科目はスクーリングを行わないので、各自が学ぶ指針を示したものである。					
テキスト	「現代音楽小史」 ポール・グリフィス 著／石田一志 訳 (音楽之友社)		参考文献	それぞれの作曲家についての評伝や、シェーンベルク、ドビュッシー、バルトーク、メシアン、ブーレーズなどによる音楽技法についての著作などを適宜、各自のテーマに合わせて参考文献を選択すること。	
評価方法：					
通信授業は提出課題2件を以って評価する。					